

日本生物工学会の研究部会は興味のある方ならどなたでも入会することができます。会費は無料です。氏名・メールアドレス・電話番号・所属・住所・専門の(興味のある)分野を記入のうえ、各研究部会担当者までお申し込みください。部会員にはシンポジウムなどの案内をいたします。多くの方の入会をお待ちしております(順不同)。

第1種研究部会

自然共生に学ぶ生物工学研究部会

代表者 岡澤敦司

連絡先 岡澤敦司 (大阪公立大学大学院農学研究科)

TEL. 072-254-9461 E-mail: okazawa.atsushi@omu.ac.jp

現代社会では、人間活動による環境への影響が顕著になり、持続可能な未来への道筋が問われています。この課題に直面し、生物工学においても地球環境との調和を目指した新たな研究アプローチが急務となっています。本研究部会では、自然界における共生関係や生物間相互作用に関する研究を生物工学に応用することを目的とし、この分野の研究者が集まり議論を重ねます。特に、産業界との連携を強化し研究成果の実用化を目指すことで、社会的・環境的に責任ある技術開発を推進します。産学官を問わず多くの皆様のご参加をお待ちしています。

第2種研究部会

代謝工学研究部会

代表者 清水 浩

連絡先 戸谷吉博 (大阪大学大学院情報科学研究科バイオ情報工学専攻)

TEL. 06-6879-7432 E-mail: ytoya@ist.osaka-u.ac.jp

微生物をシステムとして理解し、目的の物質を生産するための最適な手法を開発することを目的とする「代謝工学」の重要性が深く認識されています。また、オミクス情報も含めた細胞状態の解析、定量化技術の高度化によって、細胞に望ましい形質を賦与する有用遺伝子を従来にない範囲で高速に探索する方法の開発が望まれています。代謝工学研究部会では、本分野の学術の発展、情報の交換を行って、生物工学分野において世界をリードすることを目指すものです。技術交流や情報交換を行って多くの会員に好評を得ております。皆様にご参加いただければ幸いです。

スローフード共生発酵工学研究部会

代表者 渡邊泰祐

連絡先 渡邊泰祐 (日本大学生物資源科学部)

TEL. 0466-84-3944 E-mail: watanabe.taisuke@nihon-u.ac.jp

複数の微生物の相互作用により製造される伝統発酵食品は、健康長寿効果を有することが明らかにされつつあります。一方、具体的にどの成分が体内のどこで働くかについての知見は少なく、そのメカニズムの解明が待たれています。本研究部会では、伝統発酵食品における複雑な微生物発酵工程と、発酵過程で生じた成分が有する健康長寿に対する効果を明らかにしていきたいと考えています。昨年度改訂した発酵食品機能性データベースをさらにバージョンアップするとともに、学会等を介した産学官の情報交換を通して、若手研究者の育成・教育を行ってまいります。

メタボロミクス研究部会

代表者 福崎英一郎

連絡先 福崎英一郎 (大阪大学工学研究科生命先端工学専攻)

E-mail: fukusaki@bio.eng.osaka-u.ac.jp

生体内代謝産物の網羅的解析である『メタボロミクス (Metabolomics)』は、ポストゲノム科学の一分野として生まれたもっとも新しいオーム科学です。メタボロミクスは、機能未知遺伝子の機能解明の有力な研究手段として注目されているだけでなく、医療、食品、工業微生物分子育種への応用が期待されています。当研究部会では、メタボロミクス技術そのものの開発に加えて、メタボロミクスを種々のバイオテクノロジー研究に応用してみたいという研究者を歓迎しています。活動は、年次大会におけるシンポジウムなどおよび、研究部会主催の技術講習会を中心に、不定期に活動を行っています。

ナノバイオテクノロジー研究部会

代表者 民谷栄一

連絡先 民谷栄一 (国立研究開発法人 産業技術総合研究所)

TEL. 06-6879-4087 E-mail: tamiya.handai-oil@aist.go.jp

ナノバイオテクノロジー研究部会では、生命現象の基礎となる分子反応場を担う分子複合体のナノ領域に着目し、これらを理解するための研究ツールとしてのナノテクノロジー (ナノ材料、ナノデバイス、ナノ操作など) に力点をおき、バイオテクノロジーとの融合展開を推進する研究会であります。たとえば、DDS、バイオイメージング、バイオセンサーバイオエネルギー変換、再生工学など各バイオ関連分野での応用展開がすでに行われています。学会シンポジウムの企画などを通じた情報発信や会員の皆様との情報交流を進めたいと祈念しております。大学公設研究所の研究者はいうまでもなく、産業界からの積極的な参加を募集いたします。

次世代植物バイオ研究部会

代表者 村中俊哉

連絡先 村中俊哉 (大阪大学大学院工学研究科)

TEL. 06-6879-7423 E-mail: muranaka@bio.eng.osaka-u.ac.jp

従来のバイオテクノロジーに加え、精密かつ包括的な代謝物分析、大規模遺伝子解析技術、環境制御技術の発展、さらには、ゲノム編集などの新植物育種技術 (NBT) の開発やAIとの融合などにより、植物バイオが、産業化につながる技術として注目されています。本研究部会では、植物分野の他の研究会とも連携を図り、日頃のメーリングリストによる情報交換、国内・国際セミナーの開催などを行い、未利用の植物機能の解明とその応用を目指します。民間企業の方、学生会員を含め、幅広い学会員の参加を募ります。これから植物バイオ研究をやってみよう、という学会員も是非ご入会ください。

未培養微生物 (微生物ダークマター) 資源工学研究部会

代表者 青柳秀紀

連絡先 青柳秀紀 (筑波大学生命環境系)

TEL. 029-853-7212 E-mail: aoyagi.hideki.ge@u.tsukuba.ac.jp

従来の微生物培養法では自然界の微生物の1%程度しか培養ができていない。残された99%の未培養微生物 (Microbial dark matter) 資源は、国内外で学術、産業面の利活用が期待され、網羅的なゲノム解析などが活発に行われている。しかしながら、塩基配列だけでは分からない微生物の機能解明や実利用を考えた場合、生物工学的視点から、Dark matter微生物の解析、探索、分離・単離、培養、評価、保存、利用に関連する新規技術開発や、ビッグデータとの連携が必須である。本研究部会では、本分野に関連する研究者・技術者の情報交換や講演会の開催などを通じ、Dark matter微生物に関連する研究、基盤技術開発、利用の活性化を目指します。ご興味のある皆様のご参加を心よりお待ちしております。

生物資源を活用した地域創生研究部会

代表者 古賀雄一

連絡先 古賀雄一（岡山理科大学工学部応用化学科）

TEL. 086-256-9649 E-mail: y-koga@ous.ac.jp

生物工学の切り口で地域の課題をグローバルに考える“グローバルバイオ”に参加していただける会員を募集します。特徴ある生物資源や、地域の課題などお持ちの方、生物工学の知見を生かした産学連携や人材育成のご経験のある方、グローバルバイオの新しい展開に興味のある方の参加をお待ちしております。本研究部会では地域の課題、技術、資源、地域創生活動に関する情報を集約し研究部会員に発信します。初年度に発行いたしました、国内外の生物資源活用34事例や、大学での取り組みを集めた「地域資源産業化事例集」を、本研究部会員に配布いたしております。

バイオインフォマティクス相談部会

代表者 堀之内貴明

連絡先 堀之内貴明（産業技術総合研究所人工知能研究センター）

TEL. 03-3599-7448 E-mail: takaaki.horinouchi@aist.go.jp

分析技術の革新やコンピュータの演算能力の向上に伴い、生命情報ビッグデータを得られる時代が訪れ、こうしたデータを論理的かつ効率的に解析するバイオインフォマティクスの生物工学分野における重要性が増している。しかし、バイオインフォマティクス解析は高度な専門知識を要し、さらにターゲットや目的によって方法論が多様であるため、未経験者にとっての敷居が高い。そこで当部会では勉強会や講演会などの企画開催、部会員MLならびに相談窓口の運営を通じ、当該分野の活性化、交流の場の形成、人材育成、研究活動の支援に貢献する。バイオインフォマティクスに興味のある方々はぜひ本部会の活動にご参加ください。

次世代アニマルセルインダストリー研究部会

代表者 河原正浩

連絡先 岩井良輔（岡山理科大学フロンティア理工学研究所）

TEL. 086-256-9617 E-mail: iwai@ous.ac.jp

動物細胞培養技術の進歩に伴い、細胞機能を利用するバイオ医薬品製造や細胞挙動を評価利用する創薬、細胞自身を利用する再生医療など多くの分野での利用が加速し、産業界における動物細胞利用技術は重要度を増している。本研究部会は既存技術の枠にとらわれず、次世代の産業利用技術開発および発展、さらには次世代を担う若手の奨励を目的として設置された。この目的を達成するためには、アカデミアの持つ多様なシーズ技術の体系化だけでなく、産業界の欲するニーズとのマッチングが不可欠である。本研究部会では当該分野の研究者が一堂に介し、独立したシンポジウム企画、年会でのシンポジウム応募や優秀学生発表表彰などを通じて活発な議論や情報交換を行っていく。

バイオ計測サイエンス研究部会

代表者 内山 進

連絡先 内山 進（大阪大学大学院工学学科）

TEL. 06-6879-4215 E-mail: suchi@bio.eng.osaka-u.ac.jp

バイオテクノロジーの発展には計測が欠かせません。従来利用されてきた手法も周辺技術や解析技術の発展の恩恵により日々進歩しています。科学原理的には予測されていても実現できていなかった計測手法が技術の進歩により現実のものとなった手法もあります。バイオ計測は、バイオテクノロジーによる創造だけでなく、品質や安全性担保においても必須の技術分野です。本研究会では、計測技術でバイオテクノロジーを発展させる・革新することに興味と熱意をお持ちの、経験豊富なバイオ計測研究者、バイオ計測に参入したい若手あるいは熟練研究者、さらに、計測がバイオ産業を変革すると考える事業や経営を担当されている、皆様の参加をお待ちしています。

脂質駆動学術産業創生研究部会

代表者 櫻谷英治

連絡先 櫻谷英治（徳島大学生物資源産業学部）

TEL. 088-656-7528 E-mail: sakuradani.eiji@tokushima-u.ac.jp

脂質研究領域のさらなる発展には多様な学術分野の融合と新規概念の導入が必要と考えられます。すなわち、新規機能性脂質の創出、脂質・脂質代謝物の正確なリピドーム解析、脂質代謝産物を介したヒト（細胞）と腸内細菌の相互作用解明、細胞への脂質の輸送と生理学的機能解明、機能性脂質の物性評価と合成技術開発などが重要となります。本研究部会では、脂質と脂質代謝物を鍵化合物とした新たな機能の開拓に基づき、産業の創出を駆動することを目指しています。これからの脂質研究に関する情報交換、産学官交流にご興味をお持ちの方に、毎年開催の講演会を中心とした本研究部会の活動に、ご参加いただければ幸いです。

非線形バイオシステム研究部会

代表者 田丸 浩

連絡先 田丸 浩（東北大学グリーンクロステック研究センター）

TEL. 022-795-5863 E-mail: yutama.tamaru.c3@tohoku.ac.jp

本研究部会では、環境（条件）から何らかのシグナルに反応して状態を変える細胞情報を「非線形的」に解析する方法論を議論するとともに、これまで予測不可能であった環境的シグナルに反応する細胞情報をデータベース化することで、将来的な「非平衡パラメーター」として利用・応用することを目指します。さまざまな生命現象の複雑な振る舞いに興味のあるウェット側の研究者から数理モデルなど理論に興味のあるドライ側の研究者まで、生物機能の再構築モデルのための「知識データベース」を共有したいと考える幅広い分野の方々からの積極的な参加を期待しております。

培養技術研究会

代表者 片倉啓雄

連絡先 片倉啓雄（関西大学化学生命工学部生命・生物工学科）

TEL. 06-6368-0809 E-mail: katakura@kansai-u.ac.jp

培養技術はバイオ産業の根幹技術ですが、経験則や口伝えに依存する部分が大きく、産学官の何れにおいてもその伝承が問題になっています。そこで、(1) アップストリーム（スクリーニング、育種、原料調達）からダウンストリーム（分離、精製、廃水処理）まで、培養に関連する技術・理論を正しく理解できるセミナーを開催し、(2) 論文や教科書になっていない知識やノウハウをWikipedia形式で文書化して共有し、(3) 知財に配慮しつつ、それぞれの組織がかかえる問題を相談・解決できる懇談の場を提供します。興味のある方はまずご連絡ください。

若手研究会

生物工学若手研究者の集い（生物工学若手会）

代表者 蟹江 慧

連絡先 蟹江 慧（近畿大学工学部化学生命工学科）

TEL. 082-439-1110 E-mail: kanie-k@hiro.kindai.ac.jp

生物工学若手会は生物工学に関連する各分野に属する全国の若手研究者（大学・企業）、および次世代の若手研究者（学生）の相互交流を目的とした団体です。若手会恒例の夏のセミナーは、3回の中止を経て約4年ぶりに2023年6月24～25日に富山にてオンライン開催いたしました。第76回日本生物工学会大会では、総会・交流会を大会初日に、博士人材のためのキャリアパスシンポジウムを大会2日目に予定しています。今年度も、若手研究者同士が「生物工学」という一つのキーワードのもとで、分野を超えた出会いや交流ができるような場を提供したいと思っています。是非、お気軽にご参加ください。